

(11)Publication number : 01-291887

(43)Date of publication of application : 24.11.1989

(51)Int.Cl.

A63H 33/18

(21)Application number : 63-120246

(71)Applicant : KOYAMA KEISUKE

(22)Date of filing : 17.05.1988

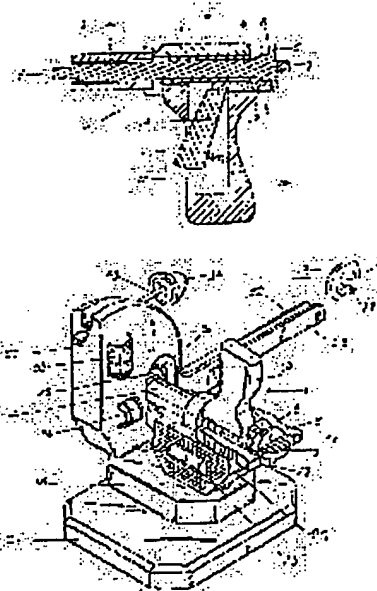
(72)Inventor : KOYAMA KEISUKE

(54) PROJECTOR WITH DISPLAYING FUNCTION

(57)Abstract:

PURPOSE: To provide a projector which serves as a playing tool for shooting a target and competing the shooting distance and also as a display by triggering a pistol, and thereby discharging a bullet in the form of a disc from the discharging part while it rotates at a high speed.

CONSTITUTION: In such a way as capable of detection and release with/from a trigger 11 and also of sliding, a rotary slide 4 having a detent boss 5 is installed which is energized by a torsion spring 3 rotatably within the gunbarrel 2 of a pistol body 1. A bullet discharge part 27 is arranged perpendicular to a receive board body 26 provided on a base 24, and another discharge part 28 equipped with a discharge groove 32 is provided in continuity to the first named discharge part 27. The pistol body 1, in which a detent boss 5 is removably fitted in the detent hole 19 in a disc 18, is placed on this disc 18, and the disc 18 is allowed to run out of the discharge part 28 when the trigger 11 is pulled. This permits the device to be used both as a display and as a playing tool for hitting a disc rotarily discharged to an object and competing the shooting distance therein.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's

⑫ 公開特許公報(A) 平1-291887

⑬ Int.Cl.

A 63 H 33/18

識別記号

庁内整理番号

G-7017-2C

⑭ 公開 平成1年(1989)11月24日

審査請求 有 請求項の数 5 (全6頁)

⑮ 発明の名称 ディスプレイにも兼用可能な発射装置

⑯ 特 願 昭63-120246

⑰ 出 願 昭63(1988)5月17日

⑱ 発 明 者 小 山 圭 介 茨城県牛久市牛久町280番地1104

⑲ 出 願 人 小 山 圭 介 茨城県牛久市牛久町280番地1104

⑳ 代 理 人 弁理士 小野 樫太

明 細 書

1. 発明の名称

ディスプレイにも兼用可能な発射装置

2. 特許請求の範囲

1. 引金に係脱可能にかつ銃身部内に設けたネジリバネにより回転可能に付勢された係合突部を有する回転摺動体を摺動自在に設けてなるピストル本体と、係合穴部を設けた円盤体と、基台に設けた受盤体と該受盤体と直交方向に設けた発射部と該発射部に連設した射出溝を設けた射出部とからなり、前記円盤体の係合穴部に前記係合突部を摺脱自在に挿入してなるピストル本体を前記受盤体に載置し引金の操作により円盤体を射出部から射出可能に設けたことを特徴とするディスプレイにも兼用可能な発射装置。

2. ピストル本体と、基台と、受盤体と、発射部と、射出部とが木製でありピストル本体の銃身部の根部方向の両側にフィン状装飾体を設け、発射部の外側面に円弧状装飾体を設けてなる特許請求の範囲第1項記載のディスプレイにも兼

用可能な発射装置

3. 発射部の上部に、先端が円錐状照準部に形成されたを照準体を射出部と同一方向に突設してなる特許請求の範囲第1項記載のディスプレイにも兼用可能な発射装置。

4. 円盤体が、外周縁にゴム又は合成樹脂製の緩衝体が突周設されてなる特許請求の範囲第1項記載のディスプレイにも兼用可能な発射装置。

5. 受盤体と発射部と射出部とが、基台上において回転自在に設けられてなる特許請求の範囲第2項記載のディスプレイにも兼用可能な発射装置。

3. 発明の詳細な説明

産業上の利用分野

本発明は、ディスプレイにも兼用可能な発射装置であり、より詳細にはピストル体の操作により円盤体が回転射出可能に設けられてなり該射出された円盤体が基台上に設けた発射部から射出部を経て一方へ打ち出し可能に設けられたディスプレイにも兼用できる発射装置に関するものである。

従来の技術

従来のこの種のピストル玩具においては、銃身部から弾を発射せしめるという機能のみを重視したものであり、また発射された弾が目標物等に当てるように構成されてなるものであった。

また、ディスプレイ用具については、装飾を主目的とするものであり、それを積極的に遊技具等に使用することを目的とするものではなかった。

この様に従来においては、ピストル玩具はピストル玩具そのものとして用いるものであり、ディスプレイ用具は装飾用具そのものとして用いることを目的とするものであった。

また、これを解決するものとしてはディスプレイとしても使用できる玩具として特開昭62-281988号「走行玩具ディスプレイ装置」が提案されており、また、例えば、ピストル玩具としては実公昭61-19351号「ピストル玩具」が提案されている。

発明が解決しようとする問題点

従来の技術においては、ピストル玩具は、ピスト

ル玩具そのものとして、或いはディスプレイ用具は装飾用具そのものとしてのみの使用するという一面的な利用のみしか出来ないという問題があった。

また、特開昭62-281988号においては、走行玩具をディスプレイ装置として用いられるものとして提案がされているが、しかしながらこれを遊技具として積極的に使用することは出来ず、また一定の場所に置いておくものであり、しかもその場所において回転走行するに過ぎないものであり、これを積極的に活用して遊技をしたりすることは出来ないという問題があった。

また、実公昭61-19351号においては、ピストル玩具であり、単にピストル玩具としての利用のみしか出来ずこれをディスプレイに用いることは出来ず、またこのピストル玩具と組合せて遊技具等として用いることは出来ないという問題があった。

問題点を解決するための手段

本発明は従来の技術における問題点を解決するも

のであり、本発明をその実施例をしめす図面に基づいて説明する。

1は、ピストル本体で全体が木製により形成され、該ピストル本体1の銃身部2は中空体に形成され、該銃身部2内には第4図に示すようにその根部方向に筒形の螺旋状に形成されたネジリバネ3が挿着されている。

4は、回転摺動体で木製の杆体に形成され銃身部2内に挿着されてなり、該回転摺動体4の先端方向は略角柱状に形成された係合突部5が設けられてなり、銃身部2から突出した回転摺動体4の根部には円盤状の操作盤6が設けられている。

操作盤6の外側面には操作ツマミ部7が設けられてなり、操作盤6の銃身部2方向の内側面には第5図に示すように引金係止段部8が対称方向に凹設されている。

該回転摺動体4は、第5図に示すように銃身部2内に挿着されたネジリバネ3を挿着しかつ該ネジリバネ3の一端が回転摺動体4に係止されている。ネジリバネ3は、銃身部2の長さ方向の略中央部

に設けられた段部9に当接して係止可能に設けられている。

回転摺動体4は、第5図に示すように操作ツマミ部7をもって捻じりながら操作盤6を銃身部2方向へ押し込むようにするとネジリバネ3が捻じれながら圧縮されて付勢され係合突部5が銃身部2の先端から外方に突出するように設けられている。この場合において、付勢された回転摺動体4の根部に設けられた操作盤6の引金係止段部8には、ピストル本体1の銃把部10に設けられた引金11に係合してなる引金係止体12に係脱自在に係止されている。

引金11は、第5図に示すようにピストル本体1の銃把部10に設けた中空部13内に係止軸14により軸止されその下端方向はバネ15により付勢されて銃把部10から銃身部2方向へ突出されている。

引金係止体12は、第5図に示すようにピストル本体1の銃身部2の根部と銃把部10との間において銃把部10の一部を穿孔して中空部13に通

通してなる貫通孔16内に出入自在に挿入されてなり。その一端は中空部13内において引金11の上端に係止され、その他端は操作盤6の引金係止段部8に係脱自在に係止されている。

銃把部10から突出している引金11を指等で引くと引金係止体12が、銃把部10の中空部13内に引っ張られて操作盤6の引金係止段部8との係止が外れて、付勢されていたネジリバネ3の復元力により回転摺動体4は回転しながら銃身部2の根部から外方へ突出し回転摺動体4の先端に設けた係合突部5は銃身部2内に収納されるように設けられている。

17は、フィン状裝飾体でピストル本体1の銃身部2の根部方向の両側の対称方向に突設されてなり、該フィン状裝飾体17は、木製により魚のヒレ状に形成されその端部は銃身部2の根部から操作盤6方向へ突出されている。

18は、円盤体であり円形平板体に形成されその略中央部には回転摺動体4の係合突部5と略同一形状に穿孔された角型孔の係合孔部19が設けら

れてなり、該円盤体18の外周縁には嵌合部20が凹設され該嵌合部20内にはゴム又は軟質合成樹脂製の緩衝体21が緊密に周設されている。

22a22bは、凹設部で円盤体18の両側面を環状に凹設してなるものである。

該凹設部22には、適宜な色彩による着色23a、23bが設けられている。

24は、基台で木製により略矩形平板状に形成されてなり、該基台24上には支軸により回転可能に平板体の取付盤25が設けられ、該取付盤25には受盤体26と、該受盤体26の略直交方向に近接してなる発射部27と、該発射部27に一体に連設された射出部28が取り付けられている。

取付盤25と受盤体26と発射部27と射出部28とが木製であり、受盤体26の上部にはピストル本体1が収置可能にピストル本体1の銃身部2の上部の外形の一部と略同一形状に凹設された銃置凹部29が凹設され、該銃置凹部29には第2図に示すようにピストル本体1が収置可能に形成されている。

発射部27は、第2図に示すように受盤体26と略直交方向に近接して設けられ、該発射部27内は、略し字状に一端方向を壁面とした縦溝状穴部30に形成され、該縦溝状穴部30と連通した挿入孔部31が穿孔され、該挿入孔部31にはピストル本体1の銃身部2の先端が挿脱可能な大きさに形成されている。

射出部28は、発射部27に一体に連設されてなり、射出部28の上面の長さ方向の全長には断面略U字型の射出溝32が凹設され、該射出溝32は発射部27の縦溝状穴部30に一体に連設されている。

発射部27の縦溝状穴部30と射出部28の射出溝32とは、円盤体18が肉厚方向たる縦方向の直立状になって自由に通過し得る様な幅員に形成されている。

33は、照準体で発射部27の上部に射出部28と同一方向に突出されその先端には円錐状照準部34が一体に突設されている。

35は、円弧状裝飾体で木製により略半筒状体に

形成されてなり、第2図に示すように発射部27の適宜位置に突設されている。

36は、裝飾部材で第2図に示すように受盤体26の側面に設けた飾り用部材である。

作用

本発明においてはピストル本体1の銃身部2内にネジリバネ3により回転可能に付勢された引金11に係止可能にした係合突部5を有する回転摺動体4が摺動自在に設けられているので、引金11を引くと銃身部2の先端方向に付勢されて係合突部5を銃身部2から突出していた回転摺動体4がネジリバネ3の復元力により回転されて銃身部2の根部方向に突出し係合突部5が銃身部2内に収納されるものである。

従って、回転摺動体4の係合突部5を円盤体18の係合穴部19内に挿入しておけば、円盤体18はピストル本体1の銃身部2の先端により押されるようにして係合突部5から外れ、かつネジリバネ3の復元力による回転摺動体4の回転により円盤体18が回転されるものである。

またこの場合、ピストル本体1の銃身部2の先端が発射部27の挿入孔部31から縦溝状穴部30内に挿入され、該縦溝状穴部30内に円盤体18を立てて挿入し、該円盤体18の係合穴部19に挿入孔部31から挿入されたピストル本体1の回転摺動体4の係合突部5を挿嵌しておき、ピストル本体1の引金を引くと回転摺動体4の係合突部5から回転しながら発射された円盤体18は、発射部27が略L字状の縦溝状穴部30に形成されているので、発射部27より射出部28の射出溝32から急速に回転しながら打ち出されるものである。

この場合、基台24上の発射部27等は回動自在に設けられてかつ照準体33が設けられているので円盤体18を任意方向に回転打ち出して適宜な目標に当てるという遊技具として使用できるものである。

全体が木製であり、しかもフィン状装飾体17や円弧状装飾体35が設けられているのでディスプレイとしての使用もでき発射部27に近接された

適宜な目標に当てる等の競技をする遊技具として用いるものである。

発明の効果

本発明は上記の如く構成したから、遊技具がそのまま優れたディスプレイとして利用できるのが当該品に対する興味を一層喚起せしめることが出来るという効果がある。

ピストルを撃つことにより、円盤体18が射出部28から急速に回転されながら射出されるものであるから、従来のこの種のピストルの引金を引くことにより弾が発射されるという機能に類し、然しんだ使用者は意外の観を覚え、当該品に対する興味を引き立てることが出来るという効果がある。ピストルという玩具が単にピストルという機能を有するものとしてのみの使用ではなく、発射装置を有するものと組合せて用いることにより、弾となる円盤体18が急速に回転しながら、射出部28からコロガリつつ射出されるという効果がある。本発明はディスプレイとして使用できると共に、円盤体18をその射出部28から回転しつつ射出

受盤体26にピストル本体1を設置するものであるから全体の外形形状が恰も、アニメーション映画等における未来戦争に用いるような発射武器の如き観を呈するものであるからディスプレイとして利用できるものである。

実施例

第1図は本発明の実施例を示すものであり、ピストル本体1を受盤体26に設置し銃身部2の先端を挿入孔部31から発射部27の縦溝状穴部30内に挿入し、ピストル本体1の操作盤6の操作ツマミ部7を回して廻しながら回転摺動体4を押し込むようにして引金係止段部8に引金係止体13に係止し、回転摺動体4の係合突部5を円盤体18の係合孔部19内に挿嵌して取付けるものである。

この様にしておけばそのままディスプレイとして用いることが出来ると共に、基台24上の発射部27を回動しつつ、照準体33で照準を合わせピストル本体1の引金11を引くと、円盤体18が射出部28から回転しながら発射されるので、適

することが出来るので、回転射出される円盤体18を予め定めた目標物に当てたり、その射出距離を競う等の遊技具として利用できるという効果がある。

照準体33が設けられているので円盤体18の射出の照準が定められるという効果がある。

円盤体18の外周縁に鋭面体21が突周設されているから、射出部28より円盤体18がピストル本体1によって急速に回転しながら射出されて床面や目標物等に衝突しても円盤体18や目標物や床面等が破損したり傷付いたりする恐れがないという効果がある。

4. 図面の簡単な説明

図面は本発明の実施例を示し、第1図は本発明の使用状態を示す斜視図、第2図は本発明からピストル本体を取外した状態の斜視図、第3図は本発明のピストル本体の斜視図、第4図はピストル本体の要部の斜視図、第5図はピストル本体の中央縦断面図、第6図は第5図の要部断面図、第7図は円盤体の斜視図と中央縦断面図、第8図はピス

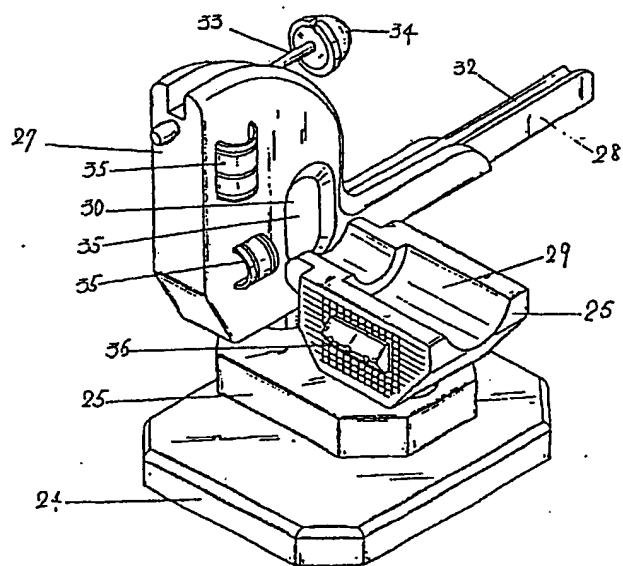
トル本体の回転撹動体に円盤体を挿嵌した状態の
要部の斜視図である。

- 1・・・ピストル本体 2・・・銃身部 3・・・
ネジリバネ 4・・・回転撹動体 5・・・係合
突部 6・・・操作錠 7・・・操作ツマミ部
8・・・引金係止段部 9・・・段部 10・・・
銃把部 11・・・引金 12・・・引金係止体
13・・・中空部 14・・・係止軸 15・・・
バネ 16・・・貫通孔 17・・・フィン状装
飾体 18・・・円盤体 19・・・係合孔部
20・・・嵌合溝 21・・・緩衝体 22a、
22b・・・凹設部 23a、23b・・・着色
24・・・基台 25・・・取付座 26・・・
受盤体 27・・・発射部 28・・・射出部
29・・・設置凹部 30・・・縦溝状穴部
31・・・挿入孔部 32・・・射出溝 33・・・
照準体 34・・・円錐状照準体 35・・・
円弧状裝飾体 36・・・裝飾部材

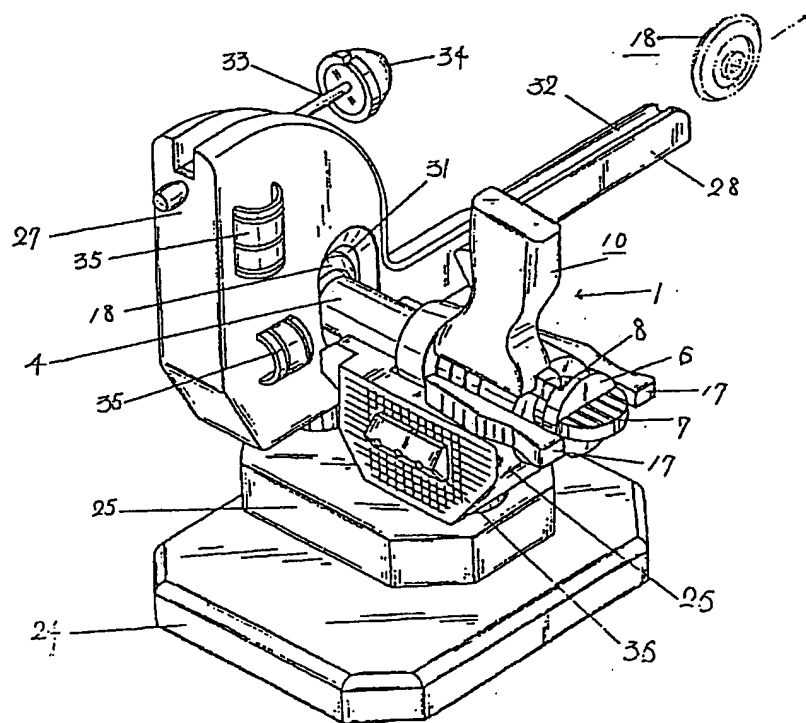
特許出願人 株式会社セノック

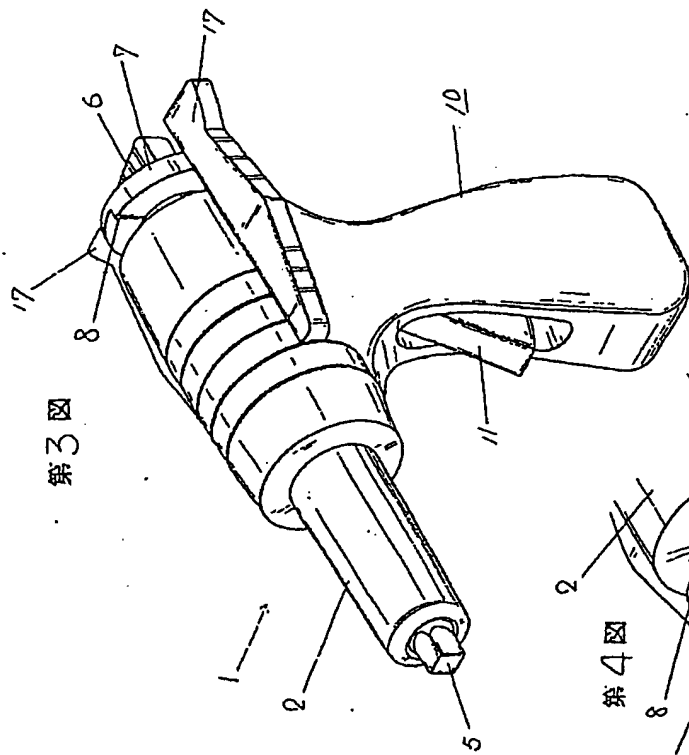
代理人 弁理士 小野 啓太

第2図

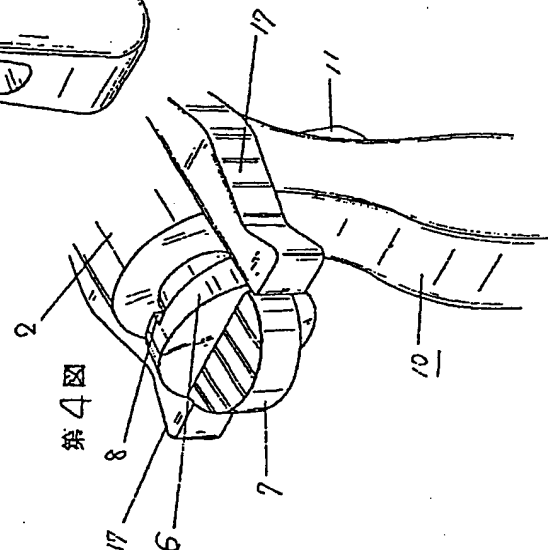


第1図

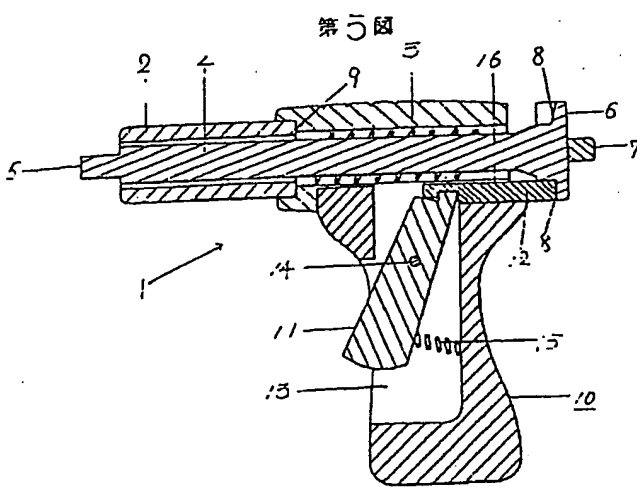




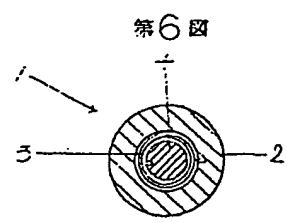
第3圖



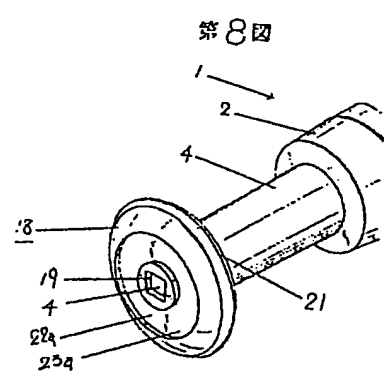
第4圖



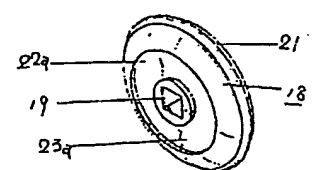
第5圖



第6圖



第7圖



第8圖

